



JOISLinkとのリンクを開始いたします

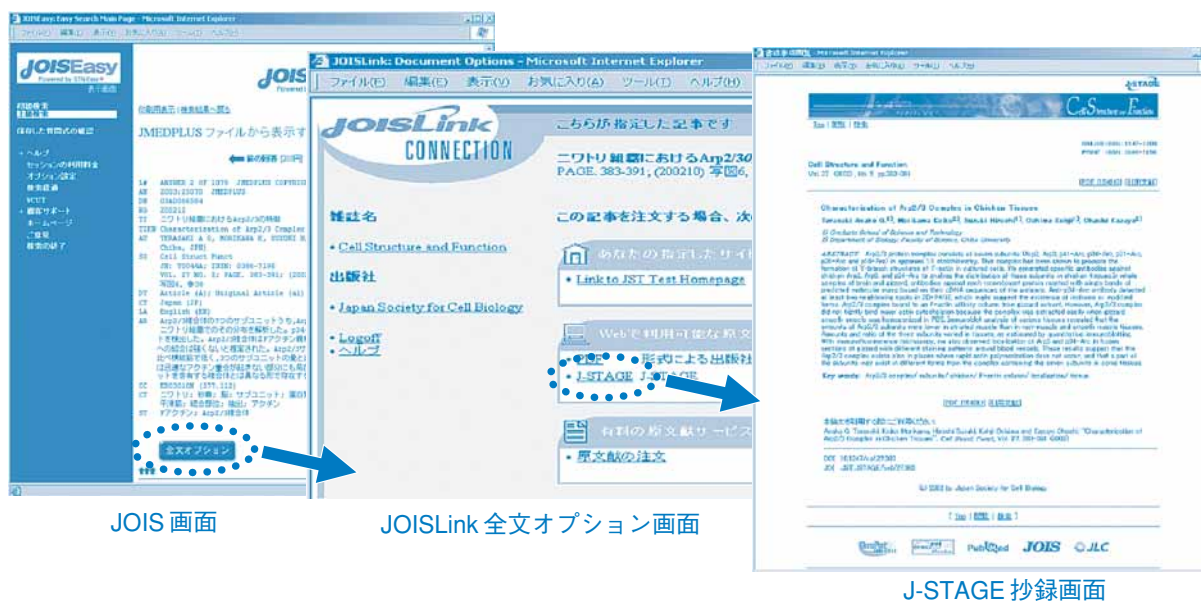
JOISLinkとは、JOIS（科学技術振興事業団（JST）が提供しているオンライン文献検索システム）の検索結果から、一次文献のフルテキストサービスへのリンクを提供するWebシステムです。JSTが、平成15年4月よりサービスを開始するもので、このサービス開始に合わせてJ-STAGEもJOISLinkに参加することになりました。これにより、JOISLinkを経由し、JOISからJ-STAGE、J-STAGEからJOISへのスムーズなアクセスが実現されます。

1. JOISLinkの機能

JOISLinkには、JOISの検索結果から全文情報へリンクする全文リンクと、引用文献からJOISの該当抄録へリンクする引用文献リンクの機能があります。

1) JOISからJ-STAGEへの全文リンク

JOISの検索結果からJ-STAGE掲載論文へリンクを提供する機能です。JOISで検索した論文がJ-STAGEに登録されていた場合、JOISLink全文オプション画面にJ-STAGEボタンが表示され、そこからJ-STAGEの抄録画面を閲覧することが可能となります。※1）、※2）



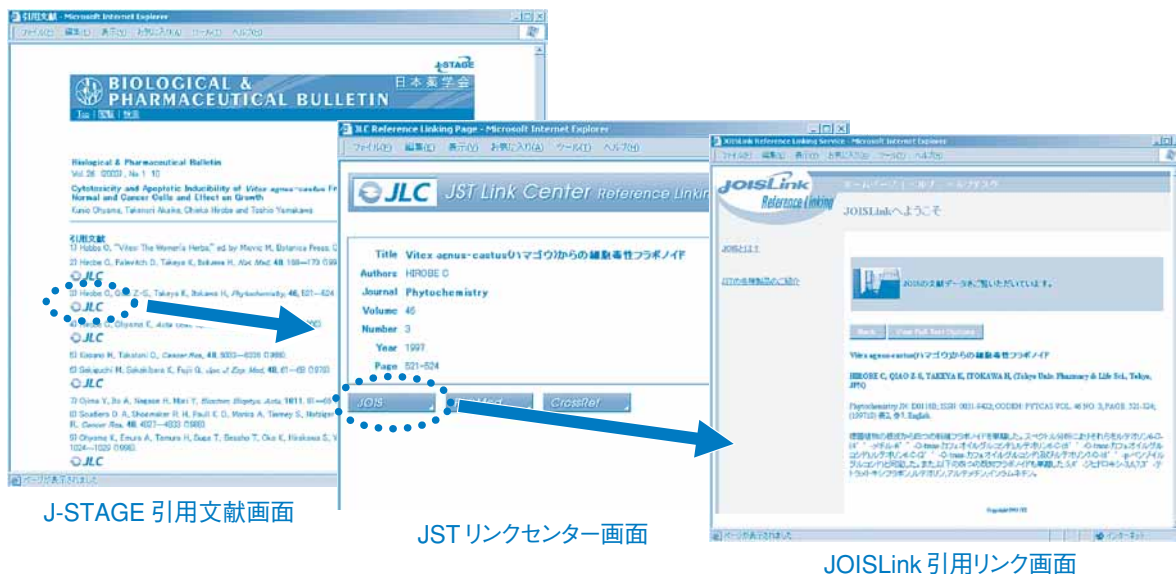
※1) 対象論文は、JOISのJSTPlusファイル、JMEDPlusファイルに登録されており、ISSN（国際標準逐次刊行物番号）を取得しているものに限りです。

※2) J-STAGEにおいて認証機能を利用されアクセスを制限している場合は、JOISからのリンクにおいても認証付きでのアクセスとなります。

2) J-STAGEからJOISへの引用文献リンク

J-STAGE掲載論文の引用文献からJOISLinkで提供する抄録情報へリンクする機能です。

J-STAGEユーザは、J-STAGEの引用文献にJOISへのリンクが含まれていれば、その抄録情報を自由に閲覧することができます。また、JOISLinkの全文入手サービスを利用し、その論文の全文情報を取得することができます。（一部のサービスにはJOISの認証が必要です。）



J-STAGE 引用文献画面

JSTリンクセンター画面

JOISLink 引用リンク画面

3) JOISLink 論文 1 部売りサービスへの参加

JOISLink には、PDF を論文単位に有償で閲覧させる機能が備わっています。

J-STAGE において認証機能を利用し、アクセス制限をかけている掲載誌につきましては、非購読者にも広く論文を利用していただくために、現在、この機能を導入する方向で調整を進めております。

2. 参加費・参加手続き

JOISLink とのリンクのための費用は無料です。また、JOISLink への参加申請書等のご提出の必要もありません。

なお、論文 1 部売りサービスの利用につきましては、申請が必要となりますが、導入が決定次第、別途ご案内させていただきます。

J-STAGE 2の開発について

J-STAGE 2の開発に関しては、J-STAGE NEWS No.4にて基本方針・開発スケジュール・新規機能等について紹介しました。平成 13 年度に基本設計を終了し、その後、平成 14 年度に意見交換会等での意見聴取を行いながら検討を重ねてきましたが、ここで、J-STAGE 2の開発項目や稼働スケジュール等について報告いたします。

J-STAGE 2の主な開発目標は、

- 1) システム運用の効率化、システムのカスタマイズの容易化の実現によるサービスの向上。学協会様にとって容易に導入できるシステム
- 2) 投稿・受付から査読・審査、公開までの電子ジャーナル作成工程の合理化による、運用コスト削減や公開までの期間の短縮化
- 3) 横断検索、バーチャルジャーナル、課金機能等の新機能（サービス）の提供

にあります。これによって、従来は学協会様のご要望にスピーディーに対応ができなかった点、特に投稿・査読・審査システムの機能改善を行い、学協会様にとって容易に導入できるシステムの実現を図ります。

開発スケジュールに関しましては、平成 15 年～平成 16 年 1 月末で詳細設計・プログラム作成・テストを行い、段階的に J-STAGE 2 へ移行していく予定です。現行の J-STAGE から J-STAGE 2 へのシステム移行は稼働が停止することのないよう配慮して行います。

なお、今後の開発に当たっては、基本設計で検討してきた内容を元にしながらも、詳細機能については各利用学協会様に再度ヒアリング等を実施させていただき、可能な限りご要望を取り入れた開発を行ってまいります。特に、課金機能や統計機能については、詳細設計において関係各所との協議を行いながらご要望に沿ったシステムを実現する予定です。

誌面の都合上、開発内容の詳細については意見交換会あるいは個別のヒアリング時に改めてご説明させていただきます。



日本化学会の J-STAGE 利用：電子ジャーナルの現状と課題

東京大学大学院総合文化研究科 小川桂一郎
日本化学会 林 和 弘

日本化学会では、J-STAGE を利用した電子ジャーナル化を 2000 年から検討し、2002 年 1 月より、2 つの英文論文誌 Bulletin of Chemical Society of Japan (以下 BCSJ と略) と Chemistry Letters (以下 CL と略) について、本格的な公開を開始しました。公開開始後まもなく ChemPort からのリンクが実現されたおかげで、両誌へのアクセスは飛躍的に増加し、国際的な知名度は一気に高まりました。同年 9 月には CrossRef による相互リンクも実現されて、主要な国際ジャーナル相互参照リンク網に組み込まれました。さらに、本年 2 月からは、電子投稿の受付も開始され、海外からの投稿が増加しています。本稿では、日本化学会の J-STAGE を利用した電子ジャーナルサービスへの取り組みをご紹介します。

公開系

BCSJ 誌と CL 誌は、いずれも化学分野で日本を代表する英文論文誌です。BCSJ 誌は 1926 年創刊、年間発行部数 37,200 部の論文誌、CL 誌は 1972 年創刊、年間発行部数 43,200 部の速報専門誌です。日本化学会では 2002 年 1 月より両誌について、毎月、冊子体の発行と同時に J-STAGE 上で電子版の公開を始めました。現在では、さらに進めて、冊子体の発行前に電子版の公開を行っています。電子版の公開は毎週 2 回行っており、冊子体の発行よりも平均して 20 日程度早い公開を実現しています。

2002 年 2 月には、日本で刊行されている論文誌としては初めて、ChemPort からのリンクが実現されました。ChemPort からのリンクこそ、日本化学会が J-STAGE にもっとも期待していた機能です。ChemPort からのリンク実現によって、Chemical Abstracts の検索結果から両誌の論文にただちにアクセスすることが可能となりました。Chemical Abstracts は、2400 万種類を越えるすべての化学物質の情報を集積したデータベースであり、化学のみならず、物理学、生物学、材料科学、薬学など、化学物質が関係するあらゆる分野の研究に必要不可欠の道具です。その Chemical Abstracts とリンクされたことで、両誌は初めて真に国際化されたと言えます。

さらに、9 月からは CrossRef によるジャーナル間の相互リンクサービスが提供されました。これにより、BCSJ および CL 両誌の引用文献から他の電子ジャーナルへ直接アクセスできるようになるとともに、他の電子ジャーナルが両誌を引用している場合にも、両誌に直接アクセスできるよ



左より小川桂一郎氏、林和弘氏

うになりました。

これらの引用リンクサービス実現によって、両誌へのアクセス数は著しく増大しました。2002 年 1 月から 12 月までの 1 年間で、両誌のアクセス数合計は 40 万回を越え、PDF ファイルのダウンロード数も 10 万回を越えました。このことは、1 年間で 1 論文当たり平均して BCSJ 誌で 70 回以上、CL 誌で 170 回以上もダウンロードされたことになります。

海外からのアクセスも著しく増加し、その割合は 70% にのびました。冊子体の海外購読者割合は 30% に過ぎなかったのですから、引用リンクサービスを備えた電子ジャーナル化が、海外の読者獲得にいかにも有効であるかがよくわかります。

読者数が増えれば、引用される機会が増える可能性があり、インパクトファクターの向上も期待されます。その意味でバックナンバーの電子ジャーナル化も重要です。本格公開を開始した 2002 年 1 月の時点で電子化されたバックナンバーは、BCSJ 誌の 2000 年 12 冊分だけでしたが、2003 年 3 月現在では、BCSJ 誌が 2000 年と 2001 年分全部、CL 誌が 2001 年全部と 1998 年の一部となりました。今後もひきつづきバックナンバー搭載作業を進め、数年後にはすべてのバックナンバーの搭載を完了させたいと考えています。

投稿系

日本化学会は、BCSJ 誌および CL 誌の電子ジャーナル化の成功を見て、電子投稿システムも J-STAGE を利用する方針を昨年 7 月に決定しました。しかしながら、その時点での J-STAGE の投稿システムは、そのまま日本化学会が利用するには不都合な点が多数存在しました。そこで、JST には、電子投稿システム利用を申し込むとともに、システムのカスタマイズをお願いしました。正式にシステム

カスタマイズ作業が始まったのは、昨年12月25日。それから、システム開発チームと日本化学会担当者との間で、頻繁かつ綿密な打ち合わせが開始されました。打ち合わせは毎週2回。そのたびに改良版が作られ、それをテストして、その結果をただちに反映させるという繰り返し作業が行われ、予定通り2月18日にCL誌の電子投稿システムが稼働し始めました。うれしいことに、翌日には最初の電子投稿が韓国から届きました。その後も、中国、イタリア、ギリシャなど、これまで投稿が少なかった国からの投稿が続いており、電子投稿システムの有効性が早くも表れています。

この電子投稿システムでは、投稿者は、原稿情報（論文題目、著者名、所属、連絡先）を入力したうえで、原稿ファイル（PDFのみ）、編集委員長宛手紙（PDF）および Supporting information（オプション）を送信します。必要事項が印字された Copyright Transfer が出力されるので、著者は、それに署名して郵送するだけで投稿は完了します。原稿受付の確実性を高めるため、日本化学会では、PDF作成のた

めの手引き、MS-WORD用のテンプレート、および Adobe Acrobat用の環境設定ファイル（ジョブオプション）を用意しました。幸い、これまで原稿受付のトラブルはありません。事務局内部の処理も、スムーズに進行しています。

このように、電子投稿システムは順調に稼働し、予想以上の効果をもたらしてくれました。しかしながら、今回出来上がったシステムは、電子投稿システムとしてはまだごく一部に過ぎません。最終原稿受付や審査システムなど、開発はこれからも続きます。今後、さらにすぐれたシステムを作り上げ、ジャーナルの国際競争力を高めたいと考えています。

最後に、日本化学会のJ-STAGE利用のために尽力されたJST電子ジャーナル部門の方々および実際のシステム開発に従事されたシステム開発チームの方々、そして、日本化学会の学術情報部門の方々に厚く御礼申し上げます。これらの方々の使命感と熱意がなければ、このような素晴らしいシステムの実現は不可能でした。ありがとうございました。

J-STAGE の利用条件

J-STAGEは、国内外に向けて「科学技術情報の発信・流通」を実現することを目的として、論文及び論文に準拠したものを掲載対象としておりましたが、論文以外の記事（広告、会報を除く）についても論文の形式を踏まえているものであれば、掲載を可能といたしました。また、これまで、掲載の区分に明確な基準がないために統一性がとれていませんでしたが、J-STAGEとして、掲載場所に対する区分とその対象範囲に対する基本的な考えを明確に致しました。

また、過去分の掲載範囲と予稿集公開システムの利用条件についても、運用実態から見直しを行いました。

■ J-STAGE への掲載対象範囲

各掲載区分の対象は以下のとおりです。

| 掲載区分 | 対 象 |
|-------|------------------------------|
| ジャーナル | 査読、審査を経た論文を継続して掲載している学協会の刊行誌 |
| 予稿集 | 大会、研究会等で発行される予稿集・要旨集 |
| 報告書 | 研究報告書、事例集、症例集等 |

補足：広告、会告等は掲載できません。

■ ジャーナルの過去分の掲載について

これまで、過去分の掲載は5年までとしていましたが、見直しを行い過去10年まで掲載範囲を拡大しました。

■ 予稿集公開システムの利用について

予稿集公開システムの大会演題登録機能の利用条件は次のとおりです。

- ・公開を利用することを前提とします。
- ・ご利用は1学会2大会までとします。
- ・登録数が100件以上を対象とします。

また、公開のみご利用になる場合は上記のような制限はございませんが、3大会以上になる場合は、ご相談の上対応させていただきます。

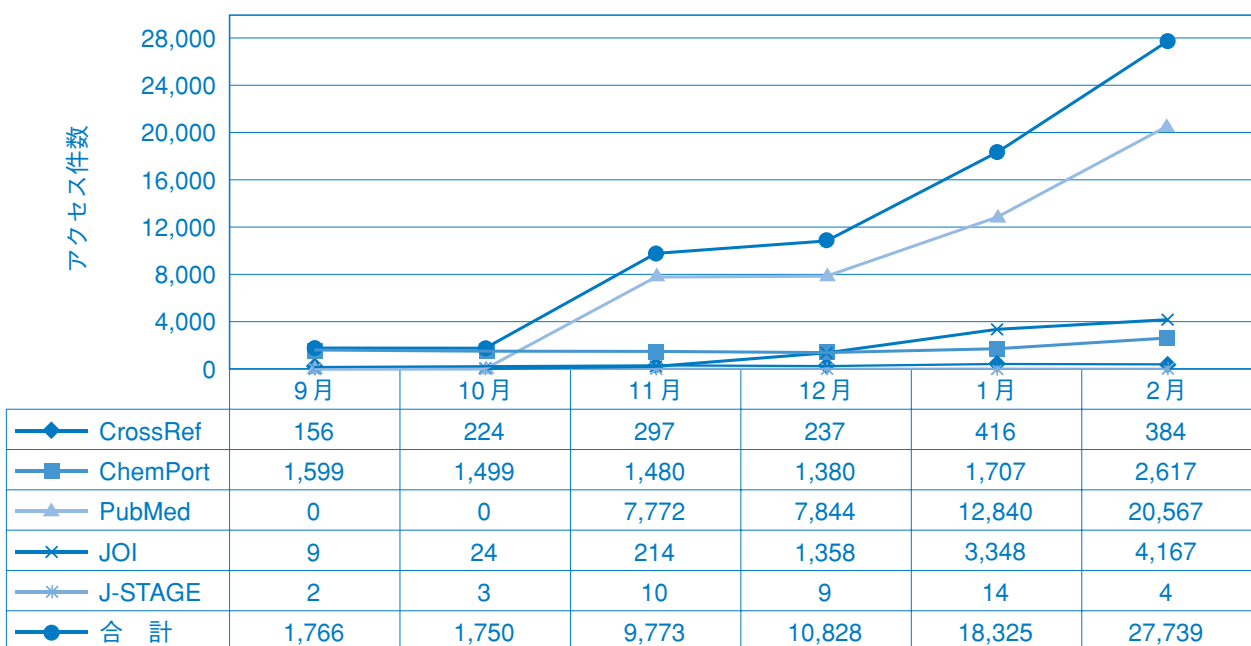
なお、本利用条件は、J-STAGE利用学協会意見交換会等で頂戴したご意見を参考に決定いたしました。

外部サイトから J-STAGE へのアクセス数

J-STAGEでは、科学技術情報のより効率的な流通・発信のため、CrossRef、ChemPort、PubMedからのリンクを実施して参りました。また、昨年9月よりJSTリンクセンターの運用を開始し、他の電子ジャーナルやデータベースとの相互リンクを統合的に行うと共に、JOI (JST Object Identifier ; JSTリンクセンターに登録されたコンテンツに対して付与するユニークな番号) を利用することにより、個別の論文へのリンクが可能となりました。

これら外部サイトからJ-STAGEへのアクセスは、月々増えており、2月には、27,000件を超えるアクセスがありました。4月からはこれらの外部サイトにJOISLinkも加わり、外部サイトからのリンクが一層強化されます。

外部サイトから J-STAGE へのアクセス数



書誌事項 / 目次作成支援ツールの提供

J-STAGE 掲載用のデータの1つであるジャーナル・予稿集用のBIBファイル (Ver.2.1) 及びCITファイル (Ver.1.3)、予稿集用の目次情報であるCONファイル (Ver.1.0) の作成を支援するためのツールとして「書誌事項/目次作成支援ツール」を開発いたしました。

本ツールには、ツールで作成したBIBファイル、CITファイル、CONファイルをJ-STAGE編集システムへアップロードする機能も備わっています。OSがMicrosoft® Windows® 98SE以上、もしくはMicrosoft® Windows NT® 4.0以上で動作いたします。

本ツールは、無料で提供いたしますので、ご希望の方は、JST電子ジャーナル部門までお問い合わせください。

※ Windows 及び Windows NT は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。



登録誌が増えました—登録ジャーナルが100誌を超えました—

3月31日現在、J-STAGEに登録されている資料は、150誌（ジャーナル103誌、予稿集・要旨集13誌、報告書2誌、JST報告書32誌）です。J-STAGE NEWS No.6以降、新たに登録されたものは、下記の45誌です。

| | 誌名 | 発行機関名 |
|-----------------------|--|--|
| ジャーナル | Applied Entomology and Zoology | 日本応用動物昆虫学会 |
| | CYTOLOGIA | 財団法人 日本メンデル協会・国際細胞学会 |
| | Experimental Animals | 日本実験動物学会 |
| | Interdisciplinary Information Sciences | Interdisciplinary Information Sciences (IIS) 編集委員会 |
| | Journal of Light & Visual Environment | 社団法人照明学会 |
| | Journal of Occupational Health | 社団法人 日本産業衛生学会 |
| | Journal of Pharmacological Sciences | 社団法人 日本薬理学会 |
| | Journal of the Ceramic Society of Japan | 社団法人 日本セラミックス協会 |
| | The Journal of Toxicological Sciences | 日本トキシコロジー学会 |
| | 圧力技術 | 社団法人 日本高圧力技術協会 |
| | 育種学研究 | 日本育種学会 |
| | 宇宙技術 | 社団法人 日本航空宇宙学会 |
| | 技術マネジメント研究 | 横浜国立大学技術マネジメント研究学会 |
| | 高圧力の科学と技術 | 日本高圧力学会 |
| | 中国・四国整形外科学会雑誌 | 中国・四国整形外科学会 |
| | 電気学会論文誌A（基礎・材料・共通部門誌） | 社団法人 電気学会 |
| | 電気学会論文誌E（センサ・マイクロマシン準部門誌） | 社団法人 電気学会 |
| | 日本応用動物昆虫学会誌 | 日本応用動物昆虫学会 |
| | ばね論文集 | ばね技術研究会 |
| | 溶接学会論文集 | 社団法人 溶接学会 |
| 予稿集・要旨集 | 経営情報学会 全国研究発表大会要旨集 | 経営情報学会 |
| | 情報化学討論会講演要旨集 | 社団法人 日本化学会情報化学部会 |
| | 人文地理学会大会 研究発表要旨 | 人文地理学会 |
| | 都市計画論文集 | 社団法人日本都市計画学会 |
| | 日本応用数理学会年会予稿集 | 日本応用数理学会 |
| | 日本地理学会発表要旨集 | 日本地理学会 |
| | 日本林学会大会発表データベース | 日本林学会 |
| 報告書 | バイオフィリア リハビリテーション国際大会予稿集 | バイオフィリア リハビリテーション学会 |
| | 農業工学研究所研究成果情報 理学療法症例報告データライブラリ | 農業工学研究所 理学療法科学学会 |
| JST報告書 | Function Evolution of Materials and devices based on Electron/Photon Related Phenomena | 科学技術振興事業団 |
| | 「極限環境状況における現象」採択研究課題 終了シンポジウム | 科学技術振興事業団 |
| | 研究領域「脳を知る」のシンポジウム | 科学技術振興事業団 |
| | 公開シンポジウム「ゲノムの構造と機能」要旨集 | 科学技術振興事業団 |
| | 公開シンポジウム予稿集「資源環境・エネルギーミニマム型システム技術」 | 科学技術振興事業団 |
| | 公開シンポジウム予稿集「脳を創る」 | 科学技術振興事業団 |
| | 終了シンポジウム予稿集 量子効果等の物理現象 | 科学技術振興事業団 |
| | シンポジウム 分子複合系の構築と機能 | 科学技術振興事業団 |
| | 「生体防御のメカニズム」採択課題 終了シンポジウム | 科学技術振興事業団 |
| | 生命活動のプログラム | 科学技術振興事業団 |
| | 戦略的基礎研究推進事業 採択研究課題 研究報告書 | 科学技術振興事業団 |
| | 「脳を知る」・「脳を守る」合同シンポジウム要旨 | 科学技術振興事業団 |
| | 領域シンポジウム予稿集 環境低負荷型の社会システム | 科学技術振興事業団 |
| 領域シンポジウム 「地球変動のメカニズム」 | 科学技術振興事業団 | |
| 領域シンポジウム 「内分泌かく乱物質」 | 科学技術振興事業団 | |

■ 編集後記 ■

♪ J-STAGEは3月末で公開ジャーナル数100を達成することができました。でもこれはあくまでも一つの通過点にすぎません。これからも200ジャーナル、300ジャーナルの公開実現に向けてがんばりますので、ご協力よろしくお願いします。（ま）

★J-STAGEおよびJ-STAGEニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。

JST情報加工分析部 電子ジャーナル部門 (contact@jstage.jst.go.jp)



<http://www.jstage.jst.go.jp>

編集 科学技術振興事業団 情報加工分析部 電子ジャーナル部門
 発行人 情報加工分析部長 戸塚隆之
 住所 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
 電話 03-5214-8455 (ダイヤルイン)
 E-MAIL contact@jstage.jst.go.jp